

第1回柴田町総合計画審議会

令和8年6月30日（火）

【出席委員】（16人）

青野 礼子、武田 則男、大槻 善之、川田 智佳子、日下 鉄男、佐藤 淳、
鈴木 秀子、中山 明美、半沢 敏男、水戸 敏見、入江 直光、佐々木 秀之、
清野 正哉、小野寺 英吏子、千葉 雄大、岡本 ひろみ

【欠席委員】（3人）

大沼 健兒、松田 松男、山本 由香里

【町出席者】

町長 滝口 茂（途中退席）

【事務局職員出席者】

まちづくり政策課：課長 熊谷 英樹、企画班長 デア 真理
主査 佐藤 康平

【日程】

○委嘱状交付式

○第1回柴田町総合計画審議会

1 開会

2 町長あいさつ

3 委員の紹介（自己紹介）

4 会長及び副会長の互選
（会長のあいさつ）

5 議題

（1） 審議会の進め方について（審議会の公開・会議録の公開）

（2） 第7次柴田町総合計画策定方針、策定スケジュールについて

（3） 第7次柴田町総合計画策定に係るまちづくりアンケート調査について

6 その他

7 閉会

— 午前10時00分 開 会 —

■委嘱状交付式

（名簿順に滝口町長から委嘱状交付）

■第1回柴田町総合計画審議会

1 開会

2 町長あいさつ

○滝口町長 柴田町総合計画審議会委員の皆様、本当にお忙しい中、第1回柴田町総合計画審議会にご参加をいただきましてありがとうございます。

皆さんご存じだと思うのですが、一応総合計画の基礎的な部分について説明させていただきます

ます。これまで、私はいろいろな総合計画に関わって参りましたが、通常、計画と言うと10年ということになるんですが、やはり町の方向性としては基礎的な部分、これは誰が町長になっても変わらない部分がございます。大体柴田町では94.5%は、誰が町長になってもやらなければならない社会保障、子育て支援、医療福祉です。あと残りの4.5%が、首長さんの考え方になるということでございますので、その94.5%をベースに4.5%を重点政策、これが首長さんによって変わるということになります。

柴田町は首長の改選時期に合わせまして、8年計画を基本に4年毎に政策を見直していくというスタイルがこの総合計画ということになります。本来であれば、私、7月22日で終了しますので、総合計画に関わるわけではないのですが、過去の経験で総合計画、それからまちづくりを進めていた点を委員の皆さんに理解していただいて、7月23日から新しい首長さんが来ますので、その首長さんのもとでこの総合計画を策定するという段取りになります。

若干お話をさせていただきますと、私、県庁で28年地方行政に関わっております。町長として24年、52年関わっております。時代の流れは変わりまして、私が県庁職員だったときには、地域を発展させると、産業政策を進めるということでありました。徐々に地方が元気になってきたときに地方分権という、地方が主役になる時代が実はあったんですね。ところが2008年から人口は今度減り出してきております。ですから、今までの総合計画は、何を建てます、これを建てましょうという形を作れたんですが、これからの総合計画は、形は作れないんじゃないかと、逆に役場を縮小していかなければならない。ダウンサイジングと言いますけどね。施設を統合していかなければいけないということで、そうすると夢も希望もないので、やはりこの町を質的に良くしていくということになるのではないかなというふうに思っております。その時に、まずは都市基盤、しっかりとした生活基盤を整えた上に、安心ネットワークというソフト面を掲げていく。これが基本です。その上に一人一人が活躍できる賑わいを作るというのは今後の方向性になるのではないかなというふうに思っているところでございました。

ですから、これまでのように形ができて、住民が満足するという時代ではないときの新たな総合計画をどうしていくかというのが実は大きな曲がり角になっております。一方で、人手不足を解消するために、デジタル化というものが進んできております。そういった新しい流れが1つと、もう1つは人手不足のために外国人が来ております。ちょっと余談になりますが、今年の桜まつりに電車で来る方々、6割は外国人でした。なぜこんなに外国人が多いんだろうと思ったら、実は宮城県で働いている従業員の方なんです。ですから、時代が大きく変わってデジタル化と外国人の考え方、こういうことをやっていかないとこれからの町は元氣にならないと

いうことに大きく変わる。ここから先は新たな首長さんの考えということなので、そのように今、柴田町が大きな変わり方をせざるを得ないので、そうした中で今後の４年間、８年間の計画をどう立てていくかと町民全員の意見を踏まえればいいんですけども、それは無理なので、今日は各専門分野の方々にそれぞれ意見を出してもらって、それぞれの分野の将来像を出しながら、全体としてどちらの方向に柴田町は進むのかというところを新しい組長さんと共に考えていただければありがたいです。今日最後に、初めての審議会でこういうお話をしているかどうか分からなかったんですが、過去の経験も踏まえましてお話をさせていただきました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

３ 委員の紹介（自己紹介）

○事務局 次に、委員に任命された皆様に自己紹介をお願いしたいと存じます。

資料１の名簿の順番をお願いいたします。

では初めに、名簿の番号１番の青野様からお願いいたします。

○青野委員 皆さんこんにちは。ナンバー１ということで農業委員会の方から出席しております、青野礼子と申します。普通は「あおの」と言われるんですけども「せいの」ですので、よろしくお願いしたいと思います。地区は、富沢というところに住んでいるんですけども、２０区ですね。一番下の方ということで岩沼に近いところに住んでおります。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

○事務局 続きまして、武田さん、お願いいたします。

○武田委員 おはようございます。ナンバー２番の武田則男と申します。教育委員をしております。住まいは西住でございます。今日のメンバーの中では西住の方は多分いらっしゃらないのかなと思っていますけれども、柴田町にとっては南でちょっと独立してるというか個性的な地域でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 続きまして、大槻さん、お願いいたします。

○大槻委員 皆さん、こんにちは。柴田町商工会から来ました大槻善之と申します。会社の方が自衛隊さんの向かいにある工業団地の方でございますので、よろしくお願いいたします、以上です。

○事務局 川田さん、お願いいたします。

○川田委員 皆さん、こんにちは。私は柴田町社会福祉協議会から参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

○日下委員 皆さん、こんにちは。私、柴田町老人クラブ連合会の会長の日下でございます。柴田町の老人クラブの会員が最近非常に少なくなっているのが心配なところなのですが、240 数名ぐらいしかいないです。ただ、今は 70 歳を過ぎても働いている人が多い。そういうことでちょっと少ない会員のクラブとなっています。1 つよろしくどうぞお願いします。

○佐藤委員 ナンバー 7 で柴田町父母教師会連絡協議会の副会長をやらせていただいている佐藤と申します。住まいの方は 17B 区、槻木小学校からちょっと離れたところにある三ケ屋敷という地区に住んでおります。いろいろと他校の P T A 会長さん、副会長さんとか、いろいろ子どもに関するいろいろなお話を聞いて、今後そのお話を町にどう生かせるのか考えながら、ご協力させていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

○鈴木委員 ナンバー 8 番、鈴木秀子です。柴田町民生委員児童委員協議会の副会長をやらせていただいております。住まいは北船岡です。初めての会議で何か皆さんの足手まといにならないように、足を引っ張らないようにと今一番ドキドキしているところですが、皆さんと一緒に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

○中山委員 こんにちは。柴田町婦人防火クラブ連合会副会長を務めさせていただいております中山明美と申します。実は名称なんですが、先月の総会で「婦人防火クラブ」というものが「女性防火クラブ」と名称が変更になっております。各地区の防火クラブの連合会ということで、今まで続けてきたわけなのですが、このご時世でいろいろなことがありますので、皆さんといろいろな話し合いができたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局 半沢さん、お願いします。

○半沢委員 どうも、皆様こんにちは。番号で言いますと 10 番の半沢と申します。私は柴田町の区長会の副会長ということで今日から参加させていただいております。私の住まいは 23 区と言いまして入間田の山手です。私の地域は雨乞のイチョウという結構有名な記念物もありますし、昔からの八雲神社、これが控えている地域で、富沢地区と同じく柴田町の山手の方の地区の者ですから、よろしくお願いします。

○水戸委員 観光物産協会の水戸と申します。会長職は 2 年そこそなんですけれども一生懸命会合に参加したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○入江委員 13 番の文化協会会長の入江と申します、よろしくお願いします。私は特に介護予防、私も含めてみんなそうだと思うのですが、特に関心があって応募しました。この前、町の包括支援センターに町内会が集まってお話を聞いたんですが、やはり介護予防で一番困るのは、自分も困るし、家族も困るし、町も困ります。この場合、包括支援センターで聞いたのは、や

はりコミュニケーションを図ることと、定期的に体を動かすこと、ここに大学の先生もいらっ
しゃいますけど、やはりそういうところが一番基本だということで、実は文化協会には42のサ
ークル団体が属してます。私自身は社交ダンスサークルを運営してますけれども、それ以外に
カラオケ、あと町長がおっしゃった英会話クラブなんかもございます。だからそういうことで
あるならば、特に介護予防分野においては、ある程度役に立つのではないかとということで今回
ここに応募いたしました。よろしくお願いいたします。

○佐々木委員 おはようございます。宮城大学の佐々木と申します。私だけもしかしたら柴田
町に住んでないかもしれないんですが、仙台の台原辺りに住んでおります。そこはご勘弁いた
だいて仲良くしていただければと思います。柴田町の方で具体的には都市計画やまちづくりな
どで、ここ10年関わらせていただいております。頑張りますのでよろしくお願いします。

○清野委員 初めまして、仙台大学の清野でございます。先ほど体育学部の関係ということで
ご指摘ありましたが、私は大学で唯一の法律系の教員でございます。18年間、国の方で国会の
方の事務局とか調査局とか法制局の3つをやっているとして、そのあと福島県に出向しまして、
会津大学というところで教員をしまして、今仙台大学の方で担当することになってございます。
福島県では個人情報とか不服審査関係の仕事をしておりますので、この度のような会議に何か
お手伝いできればというような気持ちでございます。先ほど柴田町のそれぞれの地域の話がご
ざいでしたが、私も佐々木先生と同様、仙台市から来ておりますので、なかなかちょっと町の
様子がよく分かっていないところがございます。その点はいろいろご指導いただければという
ふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○小野寺委員 こんにちは、小野寺英吏子と申します、お願いします。仙台から移住してきて
4年目になります。なのでちょっと私の地区のことがよく分かっていない感じです。仕事は訪
問介護の仕事をしています。住まいは船岡西の方になります。よろしくお願いいたします。

○千葉委員 おはようございます。仙台大学3年の千葉と申します。自分はこういう場が初め
てなので、何を言ったらいいかちょっとあんまり分かっていないんですけど、柴田町を良くし
たいという気持ちがあるので、皆さん仲良くしていただけると嬉しいです。今日は願いま
す。

○岡本委員 おはようございます、岡本ひろみと申します。29D区の太陽の村の下の地区に
なります。地区の中では防犯と防災の方の担当をしています。青パトということでパトロール
の方もやっていますので、今回いろいろな意見を参考に、私も勉強したいなと思って参加させ
ていただきました。よろしくお願いいたします。

○事務局 皆様、ありがとうございました。続きまして、事務局のまちづくり政策課から職員の自己紹介をします。

(事務局から自己紹介)

4 会長及び副会長の互選

○事務局 続きまして、次第の4、会長及び副会長の互選に入りますが、会長が選任されるまでの間、滝口町長に議事進行をお願いいたします。

○滝口町長 会長及び副会長の互選に入りたいと思います。本審議会条例第5条第2項に基づきまして、委員の互選によって選任するとなっております。自薦、他薦などがありますでしょうか。

○水戸委員 初めなんで自薦、他薦難しいんですけど、事務局案、事務局の考えがあれば、それをお聞きしてもよろしいでしょうか。

○滝口町長 選出の方法として事務局案とすることがあります。それでよろしいですか。

(「はい」の声あり)

○滝口町長 異議なしと認めます。では、事務局案をご提示願います。

○事務局 事務局案としては、これまで町のまちづくりに関わっていただきました名簿ナンバー14の宮城大学事業構想学群 佐々木教授、副会長には名簿ナンバー2の武田教育長職務代理者をお願いしたいと考えております。

○滝口町長 事務局案として会長に佐々木委員、副会長に武田委員とのことです。もし異議がなければ、拍手をもって承認をお願いします。

(拍手あり)

○滝口町長 それでは会長を佐々木委員、副会長を武田委員をお願いいたします。お2人は所定の席へご移動をお願いいたします。

○事務局 それでは、改めまして、会長にご挨拶をお願いいたします。

○佐々木会長 選任していただきまして、しっかりと取り組んでいきたいというふうに思います。宮城大学の方から来ているということもありまして、代々宮城大学の教員がこの役職を務めさせていただいたという背景もあります。そういった中で、宮城大学も宮城県の自治体ときちんと連携していくという一環もございますので、そういった面も含めまして、しっかりと取り組んで参りたいと思いますし、私もここ10年、柴田町のまちづくりに関わらせていただきまして、都市計画マスタープランのときには、コロナの間でしたけれども、各4地区を2回ほ

ど回ってワークショップをして皆さんとお話をするというような経験なんかもございますので、そういった住民の皆さんからのご意見をどう計画に反映していくかということ、また滝口町長からお話ありましたけれども、やはり1つ時代が変わってきているということで、やはりデジタルみたいなものをどう取り入れていくかというところがあります。ただ一方で、人口減少で厳しい話もありますけども、日々私も学生達と接してますし、彼らのようなやはり町に希望を持っている学生もいると思いますので、彼らが今後10年の担い手になっていくと思いますので、そういった方々がやはり希望を持って、柴田町で住み続けたいと思えるような計画づくりに邁進していきたいと思ひますし、コーディネーター役を務めて参りたいと思ひます。それではどうぞよろしくお願いしします。

○事務局 ありがとうございます。それでは、町の諮問機関である審議会として審議事項に入るため、町長はここで退席となります。

それでは、早速ここからの議事につきましては資料2の審議会条例第6条第1項の規定により、佐々木会長に進めていただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。

5 議題 (1) 審議会の進め方について（審議会の公開・会議録の公開）

○佐々木会長 それでは早速議事に入ります。

最初に第1番目の審議会の進め方について、まず審議会の公開につきまして、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

○事務局 委員の皆様には、本日の審議会の開催通知文書の中にお示ししてございますが、平成22年4月から施行いたしました、柴田町住民自治によるまちづくり基本条例の第25条の第4号において「審議会その他の行政機関の附属機関及びこれに準ずるものの会議は、公開を原則とし、その議事の概要を公開すること。ただし、会議を公開することが適当でないと認められるときは、この限りではありません。」と規定されてございます。また、総合計画審議会においては、個人に関する事項など非公開に該当するような事項を審議いただくことは想定しておりませんので、町総合計画審議会は公開として開催させていただきたいと考えております。今後第2回以降の審議会については、原則公開として進めて参ります。

なお、審議会の公開、公聴の手続き等につきましては、お配りしております資料3の柴田町総合計画審議会傍聴要領によることとして、傍聴の人数については、要領の第3条及び第4条にありますように、傍聴希望者については、会場の広さから人数を定めて傍聴を認め、規定の人数を上回る場合は、先着順により決定するという取扱いとしたいと思ひます。

審議会の公開については以上でございます。

○佐々木会長 それでは、今事務局から説明がありました、この総合計画審議会は原則公開とすることとし、資料３の柴田町総合計画審議会傍聴要綱のとおり実施するということによろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○佐々木会長 それでは、そのように取り扱いたいと思います。

次に審議会の会議録の公開について、もう一度事務局から説明をお願いします。

○事務局 審議会の会議録は、出来上がり次第、委員の皆様へ配布して確認いただいた上で、公開するようにしたいと考えてございます。公開の方法は、直接の閲覧又は町のホームページへの掲載とします。なお、公開する会議録では、委員の皆様のお名前を公開し、議事は要約したものを考えてございます。以上となります。

○佐々木会長 ただいま事務局から説明がありました。会議録については発言者の名前をつけ、要約したものを公開するという説明がありました。この取扱いについて、委員の皆様よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○佐々木会長 事前確認はされますので、皆さんに確認の依頼があったときは、特にご自分のところは確認していただくということが重要になってくるかと思います。それでは審議会の会議録も公開とすることになりました。

（２）第７次柴田町総合計画策定方針、策定スケジュールについて

次に議題（２）の第７次柴田町総合計画策定方針、策定スケジュールについて、事務局の方から説明をお願いします。

○事務局 それでは、資料の４、第７次柴田町総合計画策定方針の方をご覧いただきたいと思えます。

１．計画策定の趣旨として、現行の第６次総合計画が今年度で終了することから、令和９年度からの町政運営の基本指針となる第７次総合計画を策定するものです。

２の総合計画の概要ですが、

（１）計画の名称が「第７次柴田町総合計画」

（２）計画の構成及び期間として、①の基本構想が８年間、②の基本計画が前期と後期でそれぞれ４年間となります。

次に2ページをご覧ください。

3. 策定にあたっての基本的な考え方として、都市のコンパクト化、自治体のダウンサイジングを基本軸に据えて、住民や事業者、関係機関が課題と方向性を共有し、実効性の高い計画を目指すします。

(1) 参加・協働・情報の共有の推進として、多様な参加の機会を設け、計画に適切に反映させるものとします。

(2) 財政状況を考慮した施策の優先として、厳しい町の財政状況を直視し、財源に見合った事業の選択や施設統廃合など、規模の適正化と効率化を推進する計画とします。

(3) 時代の変化に対応した計画づくりとして、人口減少と経済の縮小を前提として、時代の変化に対応できる計画とします。

(4) 人口動態・地域特性を踏まえた重点戦略の展開として、新たな価値と魅力を創出して「住んでみたい」と感じられるまちづくりを推進します。

次に3ページになります。

(5) 地域計画との調和として、各地区の「地域計画」の調和・整合性を図るものとします。

(6) 検証可能でわかりやすい計画づくりとして、表現が簡潔明瞭で計画の効果を客観的に検証できる計画を目指します。

次に4. 総合計画の策定体制ですが、本総合計画審議会での調査、審議を経て、住民懇談会、議会への説明、次に4ページとなりますが(3) 庁内体制に記載のとおり、全庁的な策定体制を構築しながら、5ページの方に掲載しております策定体制で臨むものです。

最後のページが、これまでの策定経過となります。今年の1月に町の庁議に付議し、その後町民へのアンケート調査、その後議会での全員協議会のご説明の通りでございます。

次に資料A3の細長いものになるのですが、こちら第7次柴田町総合計画策定スケジュールをご覧くださいと思います。表の一番上の議会関係からですが、5月28日に議会全員協議会を開催し、本日の策定方針の他、令和7年度に実施した町民意識調査、アンケート調査の概要を説明しています。次の総合計画審議会ですが、本日6月30日が1回目、2回目が7月31日金曜日の午前中を予定してございます。以後、10月から2月までの間に3回の開催を予定しております。庁内体制としては、現在まで策定委員会を2回開催し、ワーキンググループとしては、各課からおおむね39歳以下の若手職員の推薦がきているところです。住民参加としては、10月に各種団体との意見交換や、住民懇談会であるまちづくりワークショップを開催し、最終段階ではパブリックコメントを実施して、最終的な意見・集約を目指すものです。以上が議題

の（２）の説明となります。

○佐々木会長 ありがとうございます。ただいま今回の第７次総合計画の策定の方針と策定のスケジュールということでご説明がありました。

それではですね、今皆さん資料は事前配布の部分もありますが、初見の部分もあると思いますので、追いついていくのがちょっと大変かもしれませんが、今大卒のところの説明であったかと思います。基本的な考え方であるとか、先ほど滝口町長からも基本的な考え方というのは９割以上、ほぼ確定の部分で、また町長が施策なんかと関わってくるところで重点政策・重点戦略のところでは変動があるという話があると思いましたが、今回基本的な考え方、全体的なものと、あとは策定の体制ということで、まさに柴田町全員で作っていくというお話だったと思います。それと同時に各地域を回って住民懇談会をやりますというところが、お話のメインだったかなというふうには思っております。この辺は一方で重要なところでもありますので、ご意見などありましたらいただければと思いますがいかがでしょうか。もしございましたら、挙手いただいて、どんなことでも構いませんのでご発言いただければと思います。

とりあえず今のところ、ここについてはご意見もなさそうですので、今日、議題は３つということになっておりまして、今２つ、とりあえず議題が進んだところになります。

（３）第７次柴田町総合計画策定に係るまちづくりアンケート調査について

○佐々木会長 それでは最後の議題となります、総合計画策定に係るまちづくりアンケート調査です。先ほど熊谷課長のお話でも、事前に住民の方にアンケート調査をやって、議会の方にもそれをご説明したという話がありました。その内容と同じものだと思いますけれども、アンケート調査につきまして、事務局の方から皆様にご説明をお願いできればと思います。

○事務局 それでは、お配りしております資料６の方をご覧いただきたいと思います。まちづくりアンケート調査概要となります。

調査の概要ですが、前回４年前同様に１８歳以上の町民４,０００人を対象としてアンケートを送付しました。回答率が４３.８％でした。回答者の概要については記載のとおりとなっております。

次に２ページをご覧ください。柴田町の住みやすさです。まちの住みやすさについて「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた割合が７０.９％、前回より２.４％落ちていきます。性別では、男女とも「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、各年代別でも同様となっております。

次に３ページの柴田町への定住意向ですが、「住みたい」と「どちらかといえば住みたい」

2つを合わせて62.2%、前回より4.3%減っています。性別による定住意向では、男女とも「どちらかといえば住みたい」が最も高くなっています。

次に4ページをご覧ください。まちの魅力についてです。「自然環境が豊かである」が49.1%と最も高く、次いで「買い物の便がよい」が43.1%。「道路や鉄道など交通の利便が高い」が28.2%となっております。

5ページがまちの不十分な所についてで、「道路や鉄道など交通の便」が25.2%と最も多く、次いで「保健・医療環境」が19.7%、「企業や産業の活力」と「働く場の確保」がともに19%となっております。

6ページの方をご覧ください。まちづくりへの現状と今後の取り組みということで、町の施策に対する満足度と重要度です。町民の方が重要と考えているにもかかわらず、満足度が低いのは「道路の整備」「公共交通機関」「雇用対策」「商業振興」となります。逆に満足度が高いものは「上水道」「下水道」「保健サービス提供体制」ととなっております。

7ページ以降が各分野別の満足度・重要度となります。このページの保健・医療・福祉の分野では、満足度は「保健サービス提供体制」、重要度は「医療体制」が最も高くなっています。全体的に重要度が高い分野となっております。

次に8ページをご覧ください。生活環境・都市基盤の分野です。こちらは、満足度は「上水道の状況」、重要度も「上水道の状況」が最も高くなっており、重要度の高い施策が多くございます。

10ページの方をご覧ください。産業振興の分野です。満足度は「観光振興の状況」、重要度は「商業振興の状況」が最も高くなっています。全体的に満足度が低い状況となっております。

次に11ページの方をご覧ください。教育・文化・スポーツの分野です。満足度は「スポーツ環境の整備」、重要度は「学校教育環境の整備」が最も高くなっています。

次に12ページをご覧ください。町民参加・行財政改革の分野です。満足度は「町民参加と協働に関する取り組みの状況」、重要度は「広域的な連携によるまちづくりの状況」が最も高くなっています。全体的に重要度は低い傾向にあります。

13ページの方をご覧ください。柴田町の将来像、8年後にどのようなまちになれば良いと思うかですが、「風水害や地震などの災害に強く、犯罪のない住環境が整備された安全安心なまち」が最も多く、次いで「交通や買い物などの生活利便性を重視したコンパクトなまち」「人にやさしい保健・医療・福祉が充実した健康・福祉のまち」となっています。各年代ともコンパクトなまちを上位に挙げています。特に10代から40代では「子育て支援や子どもの保育・教

育環境が充実した子育て・教育のまち」を、40代以上には「保健・医療・福祉が充実したまち」を上位に挙げております。以上がアンケート調査の概要となります。

○佐々木会長 ありがとうございます。今アンケートについてご説明がありましたが、これもちっと初見で見るとなかなかコメントが難しいところもあるかと思います。一方で、それぞれのご専門に近いところは何かお考えがあるかと思うので、もしよろしければご意見などいただければと思いますが、いかがでしょうか。入江委員お願いします。

○入江委員 文化協会会長の入江です。中に入っているのか入っていないのか分からないのですが、柴田町のまちづくりということですが、柴田町は多分、地域によってイメージがすごく違う。大きく分けると船岡地区と槻木地区で、船岡地区でも船迫、駅のこちら側、あとは仙台大学の近く、私もそこに住んでるんですけど、船岡新栄、自衛隊とか、多分地域差がすごくある。人によっては、例えば大河原町との境目がはっきりしなくて、人によっては柴田町で買い物をするのではなくて大河原町に行く人もたくさんいます。そういうことで、このまちづくりの観点で、柴田町ひとつとして言うけれど、地域によってすごく違う。ニーズが多分違うんだと思う。だからその辺を考えないと、ひとくくりに柴田町のアンケート、町民のアンケートといっても多分平均的な話が出てくるだけで、まちづくりを考えたら、例えば行政ということでもいいんですけど、柴田って、結構しっかり行政部、町内会がしっかりしているので、多分そういう観点でやらないと、結論が平均的な話で終わってしまう。中身が具体的なものがあんまり出てこないということになりかねないような気がするんですけど、もしそういう内容が入っていたら申し訳ないんですが、ちょっとそういう感じがしました。

○佐々木会長 ありがとうございます。それでは今の委員、ご指摘のとおり、全体像を把握したということでのよいのかとの確認だと思いますので、今回のアンケートはあくまで全体像を把握しているということによろしいでしょうか。

○事務局 委員がおっしゃるとおりで、あくまでも全体像ということですが、調査報告書という分厚い冊子も皆さんのところにあるかと思います。その中には、性別の他に、10代20代と年齢別、あと行政区毎ではないのですが、居住地区別ということで、一応町を6つに分けて小学校区毎の集計も出しております。

例えば、13ページの方にまちの住みやすさということで、下にあるのは、小学校区ごとに分けているという表で、例えば「最も住みやすい」が、船岡地区が一番高く、柴田小学校区はちょっと下がっている。それが毎回下がるということで、もちろんそれを見ながら、全体的な計画づくりでも考えるという状況です。

○佐々木会長　ありがとうございます。それでは、事前にこの分厚い資料が届いてると思いますが、これを読むのはなかなか重いかもしれませんが、今日全体像の話を聞きましたので、あと細かく、この分厚い資料から見ていただくと、地域ごとというか小学校区ごとで把握してるということでもありましたので、ご参考にしていただきたいと思います。

実際、1,749 の回答があつて、43%回答があつたというのは結構良い方ではないかなと思います。私もいろいろなものを見ていますけれども、大体 30%から 35%ぐらいの回答になってるものなんですけれども。40%を超えて回答していただいているということで、全体を見るという意味でも、ある程度の傾向がみられると思います。

今、非常に重要なご意見いただきまして、そういった意味で、各地区を回って、このワークショップというか住民懇談会なんかを重視していくというようなお話でもあつたかなと思います。他の委員の皆様にご意見いただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○清野委員　このアンケートというのは、もうこれで終わりになるんでしょうか。というのは、この総合計画というのは4年後、8年後と、ある一定のスパンがあるわけですね。そうすると年齢 18 歳以上ということなんです、やはり本当に柴田町を考えるのであれば、もっとアンケートの対象を例えば中学生とか、そういった年齢まで下げて、彼らがどのような考えを持っているのか、その辺のところも調べる必要があるのではないかなということが1つです。アンケートは、これだけなのかどうかということが1つですね。

あともう1点は、各自治体がやっているのが、いわゆる人口シミュレーションをやっていると思うんですね。ですから 30 年から 50 年後とか、あるいは今度の計画もそうしたところの変動の中でどのようなシミュレーションの中で、町としてはどういうふうな方向性を考えているのか。そうしたことの考えも見せていただきたいなということも2点目ですがどうでしょうか。

○佐々木会長　それでは今後のアンケートの方向性と、あと人口シミュレーション、そのアンケート調査結果と町独自のデータをよく一緒にグラフにするものが見せられる場合が多いんですけど、その辺で今回の策定の計画はありますかということで、お答えできる範囲でお願いできればと思います。

○事務局　前期計画のアンケート調査は1回だけということを考えてございます。

あと、前回との比較ということですので、どうしても 18 歳以上ということで区切らせていただいております。他の市町を見ても大体今 18 歳以上、中には角田市などでは 16 歳以上でとっているところもございますが、大体が 18 歳ということで、今回も 18 歳にしました。ただ8年間の総合計画の中で、次に後期基本計画を作る4年後にはもう一度アンケート調査を考えていると

ころでございます。

人口シミュレーションは別途、昨年度、町の人口ビジョンも策定してございます。総合戦略とも調整を図りながら、基本計画案を策定する方向でございます。先月末に発表になりました令和7年国勢調査の速報値より人口減少が2年加速しているのが本町の状況でございます。

○佐々木会長 ありがとうございます。総合計画の資料にはその人口のシミュレーションは資料編として入ってくるのかなと私も思っております。一方で、今お話ありましたこのアンケートの継続性とか、あとは結構これ以外にもいろいろな計画があって、住民の皆さんにはお世話になっていろいろなアンケートがあるんですね。なので重複してる部分はそういうところからのデータをもらってくるということも今回重要なのではないかと思います。

それとやはり今一番重要な意見だったのは、その子どもたちの世代とか、そういうところの意見はどうするんだというのは、これはちょっと考えてもいいのかなと思っておりました。今回住民ワークショップというのもやりますけれども、番外編で、今日はPTAの方も来ていますけれども、ご協力いただければ、何かちょっとした意見を聞く。もちろん逆に子どもたちが私も授業で学生ともやっていますけれども、急にこれを見て話してくれと言われても、ちょっとそれはそれで重たいので、ちょっと工夫して何か町の未来などを話し合う場を設定してみるといいのではないかなと聞いていて思いました。いかがですか。

○佐藤委員 子どもたちの意見を吸い上げるという機会は大切だと思うのですが、そこで今教育関係の方も来ていただけてますが、その部分を授業中にするのか、授業外の時間を使ってやるのか、そこでまた働き方改革で先生たちの労働時間がどうするとかというところが非常にネックになると思います。今子どもたちが学ばないといけない時間数が限られている中で、その子どもたちの意見の集約であったり、状況を把握するための時間はこういった部分を削ってやるのか、新たにちょっと10分20分残ってもらってやるのか、そういったところもまた問題がいろいろと出てくるのではないかなと思います。ちょっと教育の親の立場としては考えております。

○佐々木秀之 本当にそのとおりなんですよね。やはり子どもたちの意見がすごく重要で欲しいんですけども、最近探究学習とか素晴らしいことなんですけども、今ご指摘いただいたように、学校の先生方の負担にはちょっとなっていて、そういった時間を確保していただくには学校サイドとお話をしながら可能であればやる。あるいは、今のお話があったような形で総合型の時間なんかが、すでにはまるものがあるのであれば、そういうところでまちづくりについでの話をして、意見を聞いてみるような場面を作ってもいいんじゃないかなというような前

向きなお話だったかと思います。

その辺ですね、教育関係のことも、行政サイドでもちょっと意見をすり合わせながら、可能であれば、中学生ぐらいであればこの内容でしたら発言できると思いますので、中学生とか高校生とかの意見も可能であればちょっとでもいいので、試してみるというのはいいんじゃないかなと思いました。ただ一方でそこに制限もという話、これは非常に重要だと思います。

○清野委員 よろしいですか。ご説明しますと、例えばアンケートとか、例えば大学もアンケートとかよくあるわけですが、その時に未成年者だと親の同意が必要だったりします。ですからアンケートという形で、自宅を書いてもらうなり、親御さんと一緒に書いてもらうなり、そういうやり方もあるんじゃないかなというふうに思います。必ずしも学校の授業の中でその時間を割いて先生方の負担をするというところまではいかないのかなということと、あと福島でもそうですが、子どもたちがどれぐらい意識を持っているかというところをやはりしっかり把握し、例えば自由記述のところにも多分大人とは違う視点でも書き込みがあるかと思います。ですからそういう視点でアンケートという形でなるべく負担を軽減しながら、しっかりと中学生にも子どもたちも、いわゆる主体的な立場で町は求めているということ、そういう意識感、そうすることがまた子どもたちの地元に対する思いが違ってくるんじゃないかなと思ったものですから、それでお話をさせていただきました。

○佐々木会長 ありがとうございます。他にご意見などいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○小野寺委員 参考資料 14 ページの 2 番目に、先ほどこちらにもありましたけど「買い物の便がよい」というのが結構上位にあったということなんですけど、不十分の方には「道路や鉄道の交通の便」というのもありますよね。これは道路が不便ということなののでしょうか。それとも鉄道とか交通手段がないのが悪いということなののでしょうか。

○佐々木会長 そうですね。さっき入江委員からもお話ありましたが、地域によってちょっと差が出る部分があると思いますので、買い物の部分が良い人と、交通の便で、地区によって差が出てしまうところが見えるのですが、事務局の方でその辺、何かアンケートをとる中で決まっていたこととか、何かコメント等などあれば、住民懇談会で重要なテーマになってくると思いますので、現段階でお話できることがありましたらお願いできればと思います。

○事務局 本町の特徴として国勢調査の結果が出ているのですが、通勤・通学で町外に通う方が圧倒的に多いんですね。主に仙台市方面。仙台市に行けば、地下鉄東西線・南北線もあると思うのです。バスも仙台交通もあれば宮城交通もある。もちろん J R 東北本線もあれば、仙石

線も仙山線ある。そういった勤務先、通学先での交通環境と、柴田町の交通環境を比較しての回答の結果だと思われます。買い物の便についても同じで、百貨店がある町と、柴田町ではちょっとなということが自由意見でも出ているということでございます。

○佐々木会長 非常に分かりやすい説明だったかと思います。よろしいですか。他にどんなことでも構いません。意見ございますでしょうか。

○川田委員 社会福祉協議会では、現在、地区ごとの共生会議というのをやっておりまして、今年で3年目になります。地域住民としてお互いに共生、お互いが助け合うことができることは何かということで、ちょうど地区が船岡、船迫、そして槻木を1つの地区にしたら、やはり地域差がありすぎるということで、槻木を2つの地区に分けて、ちょうど4つの地区で各区長さん、民生委員さん、それから地区の団体の方とか、いろいろな方を入れて会議をしています。そしてどんなことで助け合いができるか、高齢者に対して、なかなか介護保険とか行政では手の届かない部分をお互いに協力してどのようにしていくかとか、地域をどうやって活性化させていくか、子どもたちとの触れ合いとか、それから地区の役員のなり手不足をどうするかとか、そういった会議を実際にやっております。2年間やってきて今年度それを具体的に何か形としてやれるところがないかという実践に向けて、1つでもやっていこうということで3年目の実践的な計画に取り組むということを今進めているところでございます。

ですので、今まちづくりのこの計画を見ながら、重なる部分もあるのではないかなと思うので、ぜひそういったところも参考に連携ができるといいのかなというように思っているところでございます。

それからもう1点は、この策定の基本方針のところに、考え方に「都市のコンパクト化と自治体のダウンサイジングを基本軸に据えた」とあるんですけども、やはり共生会議をやっていると、自分の住んでるところはどうなっていくかというところにすごく興味が出てくるような気がするんですね。この辺のところと、地域の実態とか、やはり懇談会とかで十分話し合っていないと、なかなか難しいのかなというところがあります。私のイメージとして、ダウンサイジングというと、その生活の規模縮小みたいになるでしょうし、都市のコンパクト化というと、郊外への拡大を抑えていって、必要な諸機能が近場で全部入れるようにするという形になるようなイメージがあるので、その辺をどのように今後町の方で考えてるのかなと思っております。以上です。

○佐々木会長 ありがとうございます。最初、社協さんの方でも共生というテーマの中で、私も去年、県社協の共生会議で講演していました。各地区の社協さんも地域に入ってきてちゃんと意

見しようとしているということです。そういったものは非常にまとまったものとかも出てくる可能性があります。ご意見出てきたものを是非こういうところに共有していただいて、「是非連携を」と有難いお話ですので、我々もやる前にすでにもう懇談会やっていただいておりますので、ぜひ情報をいただいて、こういうところにも共有していただければと思います。

それともう1つは、都市計画の話が少し重なっていたと思うんですけども、都市計画ではコンパクトシティという言葉とか、これは日本で国土交通省が言って、各自治体に下してきてる話ではあるんですけども、コンパクトシティ、ダウンサイジングが今日本のトレンドですが、世界は人口減少というどころか人口が爆発してしまっていて、食糧問題含めてどうするんだという話になってるわけです。日本であるとか、もちろんロシア・中国の人口も減少局面に入ってきたんですけども、日本も含めて特に人口減少が顕著ということで、まちづくりもコンパクト化していくというお話です。その中で今のお話ですと、多分質的な、もっと地域コミュニティーの方も大事にした方がいいよということのお話だと思いますけれども、町の方で今現時点でどう考えているのか。逆に言うと、それをこれから考えていくんですけども、ここで、ちょっと何かメッセージでもあれば、都市計画とかでもそこをしっかりとやられてるんですけども、総合計画でそこをどう考えていくかという話だと思いますが、まだ何もやってない状態なのでお話しづらいと思いますけど、お話しすることありましたらお願いします。

○事務局 会長がおっしゃったとおりの流れで、本町で令和2年に策定した都市計画マスタープラン、立地適正化計画からちょっと流れていて、やはり少しずつ縮小して、施設の統廃合をしないと町の財政でやっていけないというのが、正直、全国の自治体の流れではないかと思います。ただ、これを8年間でやればいいんですけど、まだ難しい面もありますので、ちょっと長い時間をかけながら、皆さんのご意見を参考に総合計画に少しずつ反映できればと思っております。

○佐々木会長 こういうのはこの急激なダウンサイジングという話ではなくて、コンパクトシティはあくまでコンパクトネットワークという話ですので、孤立しないようにどう繋いでいくかということです。あるいはその共生というキーワードでは、最近はまだ環境問題とか、クマであるとか動物の問題も出てきていますので、総合計画では、都市計画より少し広く考えて話をしていくということになってくると思います。

非常に皆さん活発で、貴重なご意見ありがとうございます。もうちょっと時間ありますので、もしございましたらと思いますが、いかがでしょうか。

○水戸委員 川田さんの意見を引き継ぐんですけど、住民アンケートのお話で、一体このアン

ケートでは何を聞こうとしているかよく分からなかったんですけど、やるべきなのは、本当は会長さんが言ったようにコンパクトシティ、ダウンサイジング、これは財政も含めてだと思います。こういう考え方を住民が是とするのか非とするのか。いわゆるイエスカノーなのか、その方向性だけでも、そういうのがアンケートの中にあればいいなと思う。他にも様々な策定方針なんですけど、策定方針の内容のいくつかを問うようなものをアンケートに含めてほしかった。並行して進んでそこまでの時間はなかったことは分かるんですけど、やはり5段階評価のアンケートは、なかなか私もそうなんですけど、大抵は2番、3番、4番になってしまうんですよね。なかなか自分の意見が集計されたときに行くかどうか分からないんですけど、集計するのであれば、本当はイエスカノーか、そういうアンケートも中に紛れ込んでいいんじゃないかなというふうに思います。そういう策定方針を問うようなアンケートがこれからできないのかなというのが1点です。

もう1点は、アンケートそのものは前回は踏襲しているんでしょうけれど、私らが一番知りたいのは、アンケートの調査概要で、例えば「住みやすさ」が全国平均、県平均、近隣市町、そういうところを比べて、70%の数字が柴田町いいところだねと喜んでいいのかどうか分からないんですよね。そういう、できれば比較、近隣との比較できる場所があればやって欲しい。

あともう1つは、10年20年の歴年で意識がどう変わってきたかということについても、概要報告で少し分析して欲しいなというふうに思います。これはちょっとアンケートの中身を読んでみて、ちょっと物足りなりなと思った2点です。

○佐々木会長 ありがとうございます。もうちょっと攻めたアンケートをしても良いのではないかというお話だと思いますし、多分そのところ、これからどうやっていくかということかと思います。ただ、やはり今のお話はすごく重要で、ここで策定方針は出ていまして、もちろん総合計画ですので、各農村計画とか都市計画とか、細かく見るよりは少し総合的に全体を見るものではあるんですけども、基本的な考え方とか大事なので、そこをしっかりと確認していくということは今後のワークショップだとか、懇談会などでも組み入れて、イエスカノーか、どちらかなとドキドキしますけども、それも含めて聞いて、それでそこをさらに深く話し合えば良いのではないかというお話でもあると思います。

それでやはり今のお話で重要だなと思って聞いたのは、他地域との比較とか、この町の中でも意識も変化してるのではないかと言うお話は非常に重要だと思います。やはり10年前20年前30年前と、例えばコンパクトとか、ダウンサイジングについても捉え方が違うと思います。特に経済なんて、いろいろなデータを見ても、もう意識変化というものもすごくありますので、後

でせっかくなのでコメントを求めようと思っていますけれども、もう高度経済成長を全く知らない世代というのがありますし、逆にSDGsとか学校で学んでいる世代というのも出てきてますので、最後振りますから、ぜひ油断しないで。それではお待たせしました。

○入江委員 先ほど、社会福祉協議会の方とかコンパクトシティとおっしゃっているんですけど、コンパクトシティは日本全国、多分いろいろな自治体が言ってるんですよね。そのコンパクトシティとはどういうイメージなのか。例えば船岡だったら、船岡駅前再開発して、何か大きい箱物の建物を建てるとか、そこにいろいろ集約させるとか、そういうことをやっている自治体が多分全国見ればあるかも分からないんですけど、大体赤字なんですよ、多分、そういう箱の上でやっても、だからコンパクトシティのイメージ、例えば、先ほど出ましたけど柴田町で車がないと暮らせない町です。駅に近い方はいいんですけど、駅に遠かったら特に年を取ったら駅に行く方法がないんですよ。歩きか自転車か、そういう問題では先ほど社会福祉協議会の方が言ってらっしゃったけれど、例えば、本人にきめ細かな行政サービスする人も具体的には多分それぞれ民生委員の方がいらっしゃって面倒見るんだけど、やはり面倒見きれないですね。隣の家の子を取ったばあさんが最近出てなくて、いるのかいないのか分からないのも、隣の家の子が気付く。結局外出しちゃって、自分の帰る家が分からなくなった。だから、家族は探すけどいないし、それで家族は誰を頼るかと言ったら、まず町内会に頼るんですよ。町内会の役員と私も入ってたんで、結局自分たちで車とか歩いて探してもらったりする。具体的にやっぱりそういうことがあるんです。だからやはりコンパクトシティのイメージは、例えば箱ものの問題ではなくて、多分駅前の問題もあると思うんだけど、交通の問題、町内、車が無くても何とかできる、どうしたらいいのか私はちょっと分からないんだけど。それときめ細かな行政サービスが、やはり民生委員にだけ頼ったら多分間に合わない。やはりその地域の町内会、行政区、ここはやはり比較的柴田町に要望があるんですよ。都会と違って強く要望したいことがあると思っている。そういうことを考えているのが多分コンパクトシティの中身だと思うので、コンパクトシティのスローガンはいいんだけど、その中身のイメージをもうちょっと明確にすると分かりやすくなるのではないかと思います。

○佐々木会長 ありがとうございます。都市計画の分野なんですけども、正式には、コンパクトシティ&ネットワークと言うんですね。今のお話がありましたように、やはりコンパクトシティ計画というのを作ると、これ正直な話、都市計画なんですけれども、都市計画マスタープラン、あと立地適正化計画、これをセットで作ると、ある意味誘客するような複合施設には予算がつくというのがここ5年間の国の政策だったんですね。なので柴田町は宮城県で2番目に

立地適正化計画を作った自治体なんですね。大崎の次に柴田が作った。なのでいろいろな建物が、今回であれば図書館とか国が半分以上お金を出しているということ。多分柴田町の人口は3万ちょっとですよ。その財政規模でこれだけ作るのに全額柴田町で出すというのは多分無理だと思います。そういった中で滝口町長が中心となっていていろいろな予算を取ってきて、組み合わせで今やってきたという、ただこの予算というのも実はもう今ないので、今から欲しいと言ってもないので、柴田町が早い段階に計画を作って、その予算を抑えてきたというのは事実だと思います。ただいまお話ありましたとおり、入江委員の方から、これからはそこではなくて、このネットワークのところを、というようなお話だったと思います。これは計画にもすごく重要だと思います。

あと事務局の方で、先ほど水戸委員と入江委員の将来的な展望の話でもあると思うんですけども、課長の方でもコメントがあれば、お願いできればと思います。

○事務局 コンパクトシティについては、佐々木会長が一番お詳しいと思うので、私からコメントは控えたいと思います。

あと、水戸委員からご指摘ありました他の町どうなんだというのは、私も大分気になって調べましたら、統一的な質問、方法ではないんですが、例えばうちの町だと、概要の2ページに住みやすさとして「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」が70.9%。他の町だと「とても暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」、「大変住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の上位2つ合わせるんですけど、例えば角田市だと上位2つで58%、白石市39%、丸森町は55.1%。総合計画で示していますが利府町だと78.3%、随分高いので細かく調べてみると、やはり利府駅へのアクセスの良さ、仙台市中心部への通勤・通学のしやすさ、三陸自動車、北部道路など幹線道路が大分整備されている。そして県民の森とか加瀬沼公園、緑豊かな環境があるということで住みやすい割合が高いのではないかな。ただ、定住意向は柴田町は62.1%なんですけど、利府は55.5%。若い世代にとって、住宅購入とか、賃貸のハードルがちょっと高いという部分が違っているでしょうね。そういったものでちょっと差が出てくるというので、本町の場合は結構高いのかなとは感じました。

○水戸委員 それを書いてくれると面白くて読むと思うんですが、ぜひ次回お願いしたいです。

○佐々木会長 それでは、別に住民懇談会の際などに、ざっくばらんにお話していくとして、昔は結構、怒られたりする局面もあったりするんですけど、今きちんと話し合いするような文化もできてきてます。結果はこういったふうに書いてあるんだけど皆さんどう思いますかというようなことをざっくばらんにお話を聞いて歩くと、そしてそれを今の水戸委員がお話が

りましたとおり、数字のデータも大事なんですけれども、ちょっと比較であるとか、町の良いところ悪いところがもうちょっと多角的に伝わるように示していくというようにお話いただきましたので、そこはどっちかというアンケートではちょっと難しいところもあるので、懇談会の中で生かしていければというふうに私も思いました。

それではですね。結構随分時間も経ってきたんですけれども、もしご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○佐藤委員 こういう会合に参加することも初めてだし、町がどういう考えでどういう方法をとっているのかというの、あまり分かっていない。そこまで積極的に町の状況を確認していない身として、ただぼんやりとしたイメージの発言なんですけど、コンパクトシティとか、縮小的なイメージな感じをとって、財政難でお金がないですというのは世の中そんな景気の良い状況でないのは分かっているんですけど、柴田町として人口減少、逆に人口を増やすための活動とか、未来像というのはどういったことを考えてるのかなというのが聞きたいです。

○佐々木会長 熊谷課長が考えてる間に私がちょっとお話ししますと、実はさっきの利府町の総合計画の会長を私がやっております、今のような話がありました。やはり人口減の話はものすごくしています。ただ、今みたいな意見が出てきて、それでやっぱり変わるんですよ。だから欠席しないで、今みたいな意見を聞くことが大事なんです。作るのは行政サイドとか受託事業者があるのは事実なんですけれども、皆さんがそういう意見を出していただければ、そういう方向になっていくと思います。

利府のときは、ちょっと大分前になりましたけれども、確か皆さんの意見があって、キャッチフレーズを「もっと前へ」としていました。ただやはり市の人口を目指すということに対してはかなり異論もあった。ただその時、最終的にはその学校の校長先生が、やはり子どもたちってそうなんですよね。学校では先生たちがもっと頑張れ頑張れって言ってるんですよ。ただ一方で、このまちづくりがここ10年だけの話ですけども、やはり人口減、人口減になってしまっていて、やはり子どもたちに前向きに示していきたいというのが決め手になって「もっと前へ」というフレーズになったと思うのですけれども、やはり柴田町らしい、皆様らしいものを作っていけばいいと思いますので、とにかく毎回来ていただかないとできませんので、そこが重要だと思います。

○事務局 直接人を呼ぶというのは、柴田町だけでは難しいので、例えば東京にうちの職員が行って、県の事業について行って、20件以上の相談を受けています。実際に柴田町を見たいなというのを、県の事業を使って旅費を出すので、東京から来てもらって、うちの職員が船岡駅

に迎えに行って、半日ずっと柴田町の飲食店から遊ぶところ、学校から保育所とか全部案内することを今年も3回ぐらいやっているんですね。今、移住支援金というのは、東京都内からこちらに来れば、一世帯100万円とか出す制度があるんですね。町も使っていて、去年7年度は560万で、県南2市7町でトップでした。ただ、これって結局日本全体が人口減少する中で、売名なんですけど、柴田町の売り方というのは、多分槻木駅周辺だと、名取に比べると土地安いで、そこに建てやすいという理由が一番で、まあ将来、不動産は今大変厳しい状況です。そういったことではなくて、船岡城址公園に新図書館、また、まちづくりセンター、地域交流センターを作って第3の居場所を作って、関係人口を交流人口で何とか増やしていくことで賑わいづくりができないかということを考えているところです。最終的には、新しい町長に聞いてみたいと思います。

○清野委員　なんか人口減少でどうしようかということではなくて、もっと発想を変えろということ、どこかでやったほうがいいんじゃないだろうか。例えばないものはないでそれなりにうまくいっている海士町の例であるとか。やはりもうちょっと、こう人と呼ぶだけでなく何か町自体が何かを作り、クリエイティブな何かをしている。例えば1つの発想ですけど、ちょっと柴田町の状況がまだ分かっていないんで分からないですが、例えばひとつの方法としては、私は専門が著作権法なので、例えばコンテンツの関係とか、あるいはこの町がアニメ関係どうしてるか分かりませんが、何かもう人口が減るんだから、どうしよう、どうしよう、タウンサイジングやらね、ストレートな発想じゃなくて、何か生み出すような発想も何かしていかないといけないと思います。総務省を含めて国も、自治体が手を挙げてもすぐには予算つかないとご存じですよ。やはり企画立案して、それに対しては良ければ予算をつけるというところですから、国も今それをしてるわけですね。ですから県・国の予算だけを使っていくじゃなくて、自分たちが何か生み出すようなことをしっかりとしていかなきゃいけない。だからこそ若い人たちがどんなことを考えてるのかも含めたところの発想をうまく掘り出しながら、そうするとそこにある新しいコンテンツが取れるかもしれない。

今参考になるかどうか分かりませんが、私も福島の知事から頼まれて、いろいろな町にアドバイスしたところがございますが、例えばそこでは、廃校になったところに、インターネットも、とにかくその技術と環境を全部整えてやっていこうというようなことを発想すると、そうになったら1年間光熱費全部自治体も持つと良いかなと、徳島県でそうやって成功している例があるんですよね。ですから、そうした発想を、今回この総合計画のところで考えてみるというのも、せっかくいろいろな関係者の方がおられるわけですから、やはりいろいろな意見を出し

て、そこで、その中に何か光るものが出てくるかもしれない。その時にうまく町の方で吸い上げて、あるいはそれを企画、立案する、そういうことの方がまさにこれだと思いますから、もうちょっとその前提として発想をちょっと変えてみるというのも、やられたらどうだろうというふうに思いました。

○佐々木会長　ありがとうございます。そういう意味で先ほどの佐藤委員の話なんですけれども、やはり総合計画ですので、後ろ向きなワードは取り換えますけど、前向きで明るい総合計画というのも1つ視野に入れるというところだと思います。もちろん、今回町長の交代ということもあると思いますけれども、当然町長から諮問を受けてやる場所ですので、これを全部町長が書くということもないので、滝口町長の話もありましたけど、町長が書かれるのは実際重点政策のところですよということでしたので、ぜひこの皆さんの意見をしっかりとめて、町長さん方にもいろいろお伝えするというので、そしてまた擦り合わせるということになるかと思います。

今のご意見でも特にやっぱり若者たちということもありましたので、お待たせしました、千葉さん。大学3年生でこういう会議に出てくるのは緊張するし、初めてですし、何を言っているかわからないと思いますので、どんなことでも構いませんので、ちょっとお話いただいそうですね。あとせっかくですので、そのあと岡本さんにもお話いただければと思います。

もしお話されていない方、今日帰って寝られなくなるということがないように、遠慮なくお話いただければと思いますが、ぜひ若手の千葉さんと岡本さんにちょっとお話いただければと思います。

○千葉委員　自分は、1個質問があって、やはり柴田町で、自分としては、この大人の人たちが子どもに対しての接し方というのが温かくて、受け入れ体制というのはすごい他のところと比べていいと思うんですね。先ほど誰かがお話ししたんですけど、桜まつりだったら外国人の方がいっぱいいらっしゃるって、「もう来ないで。」とかではなく、外国人の方と一緒にお店をやったり、そういうところも見られるので、やはりそういう受け入れ体制というのはすごい良いところだと思っています。このまちの魅力について見ると、柴田町に住んでる人が「特に魅力を感じない。」というようになっているのはちょっと良くないと自分は資料を見て思ったので、柴田町スモールサイズ化とか、0から1を生み出すとなったときに、やはり根っこに町の良さというのはみんなが分かっていると、それに協力しようというふうにならないと思うんですね。やはりありたい姿が見えてこない、その過程をどうしたらいいかわからないと思うんです。柴田町が、熊谷さんとかが考えるこのまちの魅力についてというのがちょっと気に

なりました。

○佐々木会長 素晴らしい。ちなみに仙台大学で何か部活とかやられているんですか。

○千葉委員 軟式野球をちょっとやってます。

○佐々木会長 もともと地元はどこなんですか。

○千葉委員 自分は気仙沼の方です。高校では硬式野球で仙台大に来て、教師を目指しています。

○佐々木会長 今、彼らみたいな例えば仙台大学だったらアンケートに協力してくれると思いますので、先生もいらっしゃいますし、彼らみたいに外から来て、気仙沼と比較してる話ですよ。今のはね。やはり柴田町、温かいですか。皆さん。

○千葉委員 自分はそう感じます。やはりこういう場に自分みたいな学生を呼んでもらえると、自分であんまり考えたことはなくて、大人たちが話し合う場だと思っていました。自分みたいな若者の意見を取り入れようとしてくれているのをすごい感じる場面が多いので温かいと思います。

○佐々木会長 そうですよ。多分そういうところが柴田の良さなんだと思うんですよ。まず住んでいる人や関係者というのは、例えばどうしてもアクセスと、買い物というのは全国どこでも出てくるので、日常になるんですけど、やはり外から別に関わってくれている皆さんがどう考えているかというところ、そういうことも聞くと、多分ここに参加の皆さんも、そうなんだって多分納得したと思います。多分当たり前のことなんですよ。みんな受け入れるのがですね。熊谷課長、柴田の良さということで、あんまり頑張らなくていいと思います。

○事務局 私は特に答えにはなってないんですが、ぜひ若者の意見をいただくということで、スケジュールにも書いておるんですが、10月に住民懇談会するんですね。今までは町長が予算の話をして、それで皆さんの意見を述べると、去年は3会場で60人近くの参加者になったんですよ。今回はワークショップ形式でしますと言えば、ますます来なくなると思うんです。ここでぜひ千葉さんのお友達を誘って、このワークショップに参加していろいろ意見述べてもらいたいというお願いがございます。

○佐々木会長 ただ私も日頃学生と接していますけど、大学生も来てくれと言ってもなかなか来てくれないので、仙台大学に10人ぐらい集まってもらって、そこに行くということの方がいいのではないかなと思っております。そのあたり、今日は先生も来てくれますので。

さっきの話もそうですよね。子ども達が集まっているところに行って聞くとか、皆さんの負担にならないようなことをやっていくのがいいのかなと思って聞いていました。良い意見あり

がとうございます。いろいろ忙しいと思いますけど、参加してくださいね。岡本さんも。

○岡本委員 先ほどお話が出た中で、私1つ発想があって、柴田町でちょうどお話いただいたので、体育館のところでいろいろなことをやっていますよね。そういうところで参加する人って、必ず決まってるような感じがしたんですね。私もそういうところに行って、いろいろな体験をしたり、写真撮ってどういう状況なのかなというのを見るのがすごい楽しみで行っているんですが、1つドローンでやったときの影響が私も強くて、今日ドローンちょっと注文したんですけど、許可がなくてドローンができるっていう、防災と防犯の担当していますので、町の意見で言っていた桜まつり、あのとき一度テレビでドローンを通したんですよね。その時の発想がすごい印象に残ってまして。今町の方では、ゆずさん。この前ちょうどお会いしたんですけど、もうちょっと使っていただきたい。今田美桜さんのビール、あれはバッチリでした。そういう発想の転換というのがやはり今必要なんだというのがすごい実感しました。だから考え方1つ変えていくのも、やはり発想の転換なのかなと、この会議に来て見て感じたところです。

○佐々木会長 まさに滝口町長が皆さんに託されたのは、多分そこなんだと思うんですよね。次の世代でデジタルなんかも取り入れながらというお話でしたけれども、やはり皆さん楽しいこともいっぱいやっていますので、そういうところをきちんと打ち出して行って、やはり楽しくないところに誰も来ませんので、やはり皆さんが楽しめるような場面を総合計画でも見えるように、総合計画から発想の転換をしていくというようなことが今回必要なんじゃないかなと思います。また、やはりその辺は皆さんの自由な意見が一番大事だと思いますので、こういった形で皆さんどんどん意見を出していただいて、こういうことをやっていますよって結構楽しいことをやっていると思いますので、そういうのをもとに現在の難しい問題も考えていくというような形で、総合計画からちょっと発想を変えてやっていくということで、熊谷課長いかがでしょうか。

○事務局 素晴らしいと思います。前向きな明るい話題で総合計画策定できるように先生中心にお願いいたします。

○佐々木会長 それでは大体、1回目の議論としては深い議論ができたと思うんですけれども、大体予定の時間になって参りました。これで議事の方は終了となりますけれども、皆さんいかがでしょうか、大丈夫ですか。言い残したことはありませんか。

○佐藤委員 今槻木小学校の6年生で、ちょっと柴田町を深く掘り下げよう的な授業等を行っています。「柴田町に修学旅行を呼ぶには」というテーマで、子供たちが、では呼ぶには福島

の会津みたいな、赤ベコの工芸体験ができるとか、じゃあ槻木では何だろう、柴田だったら桜だよね、今 100 年近く桜が育っていますけど、今後の課題としてその桜の保存だったり、また新しい木を植えるとか、その枝はらいした枝で何かできないかとか、そういうことを今、子どもたちが今一所懸命授業で取り組んで「柴田町に修学旅行を呼ぶには」をテーマにいろいろ活動している。こういうことをちょっと皆さんの耳に入れておきたかったと最後お話をさせていただきました。

○佐々木会長 素晴らしいですね、ぜひ子どもたちがどういうアイデアを出したのか、次回ちょっと持ってきてもらえばと思いますし、やはり柴田、槻木って話もありましたけれども、槻木のエリアもすごく魅力的な場所が揃ってるわけですよ。これから柴田をやりますけれども、多分こう全体を見渡していかなくちゃいけないこともあると思いますので、そういったご当地情報をどんどん上げていただいて、さっき岡本さんが、今田美桜さんが植樹して、私も植樹を手伝ったんですけど、全く評判なかったんですけど、今田さんが植えたっていうと、今だに見に来る人がいっぱいですよ。

そういった意味では、さっきアニメの話もありましたけれども、やはり新しいコンテンツとかも取り入れながら、若者にも響くような町をやっていきつつ、皆さんが住みやすさ、その辺のところをやはり楽しくやっていく。そんな中で、子どもたちはいろいろなことやってるようですので、そういった情報ありましたらここに持ち寄って共有して生かしていくと、社協の話もそうでしょうけどもね。そういうふうな形で進めていくのがよろしいんじゃないかなと、まとめとさせていただいたところでございます。

それでは、かなりしっかり議論できたと思いますので、もちろん第 1 回目ですので、今日で終わりではないので、今日は意見交換の部分はここで締めくくりたいと思います。

それで「その他」のところがあるんですけども、こちら事務局の方となっておりますので、私の進行の方は以上ですよ。では、私の役割で終了とさせていただきます。本当にご意見いっぱいいただきまして、進行ご協力いただきましてどうもありがとうございました。

6 その他

○事務局 では次第の 6 になります。事務局から皆さん連絡事項が 2 点ございます。

まず審議会の報酬につきまして、町の条例に定められた額、こちらが月額報酬 6,900 円から所得税を引いた額と、また費用弁償と言いまして、交通費 500 円をご指定の口座に振り込みをいたしますので、ご了承いただきたいと思います。こちら新たに今回登録いただきます委員の方

で、まだ事務局の方に口座振込の登録用紙とマイナンバー届出書を提出されていない方がいらっしゃいましたら、こちら終わりましたら、事務局の方へ提出の方、お願いします。

あと次に２点目、次回の第２回柴田町総合計画審議会の日時等のご連絡になります。次回７月３１日金曜日、午前１０時から、本日と同じこちらの場所で開催いたします。内容は、第６次柴田町総合計画及び基本計画の施策評価報告についてご説明申し上げる予定となっております。後日改めて開催通知文書をお送りいたします。

次に、閉会となりますが、閉会の挨拶を武田副会長にお願いしたいと存じます。お願いいたします。

７ 閉会

○武田副会長 本日はそれぞれのお立場から様々なご意見をいただき、大変よかったというふうに思っています。初めに町長さんのお話と、課長さんからの説明資料４の中で、策定にあたっての基本的な考え方というのがありました。実は今日朝、新聞を読んでいて、河北新報の社説、その社説が何だったかという、「人口減少過去最大 現実を直視し、賢く縮む道を」というのがテーマでした。まさに策定にあたっての基本的な考え方と非常に一致する内容が書かれてあったので、なるほどそういう流れなんだなというふうに実は思っていたところでございました。ただ全体としては、現実を直視というふうになると、やはり今の厳しい現実が前面に出てしまうと、先ほど出ているようになかなか夢も希望もないような話になってしまうので、子どもたちのたくさんの意見をという、それもととても大事なことだなというふうに思って聞いてます。

ただ私も教育相談員の立場だった１０年前、さらに１０数年前になりますが船岡小の校長をやっているときには、町内の小中学校の生徒数と児童数を言われたときには、小学校は２,０００、中学校は１,０００といえばまず間違いなかったんですけども、ここ２年間の町の出生者は１６０名ぐらいですね。２年続けて。そうすると、この数が９年間続くと１,５００人ぐらいになってしまうということで、１０年前に想定していた児童生徒数の、これから何年も先には間違いなく半数になってしまうということで、やはりそうした現実によつぱり合わせて、教育現場もかしこく縮むという方向に行かざるを得ないんだろうなというふうに思っていました。

今日はいろいろな勉強させていただきました。特に水戸委員さんの方からは、住民の意向と合致するのかなのかということも、とても大事なんではないかというような意見もありました。これから私たちがこの審議会でいろいろなことを考えるわけですけども、これが正

解ということは多分ないんだろうというふうに思うんですね。そうした正解のないものに対して、審議会として委員の皆様のそれぞれのお立場で知見を出し合って、そして町民の方にも納得していただける、そして柴田町のこれから4年後8年後は良くなるような審議会になればいいなというふうに思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○事務局 ありがとうございます。以上をもちまして、第1回柴田町総合計画審議会を閉会いたします。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございました。